



2021 RACE REPORT

スーパー耐久シリーズ 2021 Powered by Hankook

第1戦 もてぎスーパー耐久 5Hours Race

#52 埼玉トヨペット GB クラウン RS

2021年3月20日(土) ~21日(日)

ツインリンクもてぎ (栃木県茂木町)

■ ■ ■ 苦手なもてぎを克服し、3位表彰台を獲得 ■ ■ ■

スーパー耐久の第1戦がツインリンクもてぎで行われました。ST-3クラスのエントリー台数は6台。昨年のもてぎラウンドでは苦戦を強いられたクラウンRSですが、シーズンオフ中の改良が効果を発揮。車体の軽量化も進み、スピードが向上しました。予選日の天候は曇り。Aドライバー服部選手はコースの混雑状況を見極めコースイン。タイヤを温めながら周回し、2回目のアタックで2分03秒259(2位)をマークします。Bドライバー吉田選手は、服部選手のアドバイスをもとにセッティングを変更し、アタックにのぞみます。吉田選手のタイムは2分03秒129(1位)。合算タイム4分06秒388で予選1位となりました。この結果により、Green Braveはポールポジションポイント(2点)を獲得。また、Cドライバー川合選手はセッティングの確認走行を行い2分04秒700(1位)、Dドライバー平沼選手は決勝のレースペースを見据えた走行を行い2分06秒713(1位)。

決勝日の天候は雨。時間の経過とともに雨は強くなることが予想され、レース開催を危ぶむ声も聞こえるほど。事前にレインタイヤのテストが一切できなかったため、11時55分から急遽15分間のウォーミングアップ走行が設けられ、全チームがレインタイヤの感触を確かめます。走行終了後、ドライバーのタイヤに関する評価を聞いた近藤チーフエンジニアは、毎回のタイヤ交換を前提とした4スティント作戦を決断。吉田選手をスタートドライバーに起用します。決勝(5時間)は雨のためセーフティカー(SC)先導によりスタート。4周目からレース開始です。吉田選手はトップをキープしてオープニングラップを終了。2位の#39RC350をけん制しながら周回を重ねます。11周目、#39RC350と#244フェアレディZに抜かれて3位。吉田選手は#244フェアレディZについていくことができず、単独走行を続けます。15周目、#244フェアレディZが接触により後退し、吉田選手は2位に浮上。しかし、33周目に再び抜かれ、3位となります。36周目、吉田選手が#244フェアレディZと同時にピットイン。川合選手に交替し、店舗メカニックが素早くタイヤ交換と給油を実施。#244フェアレディZの前に出ることに成功します。

2位でコースに復帰した川合選手は、40周目に#39RC350を抜き、トップに返り咲きます。雨量増加による路面コンディション悪化のため、52周目にSCが導入。56周目からレースが再開されます。62周目に#39RC350に抜かれ、川合選手は2位に。ペースは#39RC350の方が速く、2台の差は徐々に広がっていきます。67周目に2回目のSC導入。川合選手は68周目の終わりにピットへ入り、服部選手に交代。タイヤ交換と給油を行い、ピットアウトします。ほぼ同時に#39RC350もピットインを終えており、順位は#244フェアレディZ、#39RC350、#52クラウンRSの順。服部選手は3位で周回を続けますが、雨脚は強くなる一方で、76周目に赤旗提示。レースは中断となります。約30分の中断の後、レース終了が正式にアナウンスされ、クラウンRSの正式結果は3位となりました。アンカー平沼選手が追い上げを期してスタンバイしていただけに、非常に残念ですが、天候を考えれば仕方のないところ。昨年のもてぎラウンドで5位だったことを考えると大きな進化と言えるでしょう。第2戦は4月17日~18日、スポーツランドSUGOで行われます。

決勝結果 (ST-3クラス)

#52 埼玉トヨペット Green Brave クラウン RS
(服部尚貴 / 吉田広樹 / 川合孝汰 / 平沼貴之)
決勝：3位 (75周、3時間19分25秒185)
予選：1位 (合算タイム4分06秒388)



DRIVERS VOICE

【服部尚貴選手】

これからビシバシ追いつけて勝つ予定だったのに、ということにしておきましょうか(笑)。けどね、その可能性は十分あったと思います。今はちょっと雨が少ないけど、こういうところをうまく狙ったら、ちょっとたればですが。去年と違ってこのもてぎで勝負できている、クラウン RS が一番苦手とするサーキットで表彰台に登れたということですよとしかないと思います。

【吉田広樹選手】

タイヤの落ち幅が大きそうなので、SC 中も一切タイヤを温めず、できるだけ使わないように走っていました。いざレースが始まり、一時は 39 号車の前を走れたので、自分らのペースでタイヤを使わないように走っていたのですが、他のクルマに引かかった時に抜かれてしまいました。一時は離れたのですが、39 号車もきつそうだったので、余力がある時にもう 1 回プッシュして追いつくことができました。

【川合孝次選手】

雨量が結構増えたので、いつ SC が入るのかなと思っていました。他車のペースがよく、ぼくのペースは全然上げられなかったもので、それはつらかったのですが、無理すると止まってしまうので、自分なりに心がけてミスしないように走っていました。今日はストレートでまっすぐ走らないし、前は何にも見えないし、川や池みたいなものいっぱいあって、直コースにとどまっているのが精一杯という状況でした。

【平沼貴之選手】

あれだけみんなに行け行け言われて。レース終了は本当にはしごを外された気分です。でも(このコンディションは)本当に危なかったです。3 位は残念ですね。次に乗るのは富士 24 時間だと思うので、チャンスがあればしっかりと走りたいと思います。メカニックのみんなも鍛えられていますし、ぼくも体づくりからすべて準備してきたので。でも、今は心の整理がついていない感じです。

MECHANIC VOICE

【技術課・長瀬博之】

左のホイールガンを担当しました。緊張はしましたが、普段通り、練習通りやれば大丈夫かなという思いで担当させていただきました。限られた時間の中で自分の持ち場をきっちりこなすというのは、お客様に対しても同じだと思います。そういった意味でレースは共通する部分があるので普段の仕事にも生かせると思います。

ST-3 クラス決勝結果

順位	車名(車両)	周回数
1 位	QUEEN EYES 34Z(ニッサン フェアレディ Z)	75 周
2 位	エアバスター Winmax RC350 TWS(レクサス RC350)	75 周
3 位	埼玉トヨペット GB クラウン RS(トヨタ クラウン)	75 周
4 位	岡部自動車 RECARO フェアレディ Z(ニッサン フェアレディ Z)	74 周
5 位	HELM MOTORSPORTS RC350(レクサス RC350)	74 周
6 位	エアバスター 55Garage RC350 TWS(レクサス RC350)	74 周

出走 6 台

ST-3 クラスポイントランキング

順位	ゼッケン	チーム名	ポイント
1 位	244	Max Racing	30
2 位	39	TRACY SPORTS with DELTA	22.5
3 位	52	埼玉トヨペット Green Brave	20
4 位	15	OKABEJIDOSHA motorsport	15
5 位	62	HELM MOTORSPORTS	12
6 位	41	TRACY SPORTS with DELTA	9

PARTNERS



赤城車体工業株式会社



アルパインマーケティング株式会社



EMG ルブリカンツ合同会社



株式会社エヌ・ティ・コーポレーション



株式会社 FM NACK5



大宮クリーン社・大進カーエアコン



株式会社岡崎巧芸



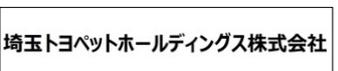
株式会社カーグラス・J P



株式会社クールホールディングス



埼玉群スリーボンド株式会社



埼玉トヨペットホールディングス株式会社



株式会社三和広告社



JU 埼玉オートオークション株式会社



株式会社テレビ埼玉



株式会社デンソーソリューション

株式会社トイファクトリー
インターナショナル

株式会社ドーム



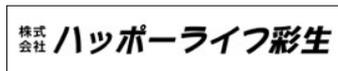
トヨタモビリティパーツ株式会社



株式会社トヨタホーム東京



株式会社トヨタレンタリース新埼玉



株式会社ハッピーライフ彩生



株式会社プロモーション



株式会社プロモーション



丸和工業株式会社